

令和6年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
「多様な病態に対応可能な肝疾患のトータルケアに資する人材育成及びその活動の質の向上等に関する研究」 分担研究報告書

肝疾患に関わる関係者の会議・委員会の効果的な運営に関する研究

研究分担者：裴 英洙 ハイズ株式会社 取締役

研究要旨：

【背景】肝疾患に関わる多くの事例では、医師や看護師など多職種が連携するため、情報共有や意思決定の場として会議体が重要な役割を果たしている。しかし、過剰な会議体の開催や非効率な運営は職員の負担増加や医療の質の低下を招く恐れがある。そのため、効果的かつ効率的な会議体運営の在り方が求められている。

【方法】

本研究では、医療機関の会議体に関する課題を整理し、改善のための具体的手法を検討した。

【結果】

会議体の効果を高めるには、事前に目的とゴールを共有し、適切な参加者を招集することが重要である。さらに、進行役の配置や時間管理の工夫により、参加者の意見を引き出し、具体的な結論とアクションプランの決定につなげられることが確認された。

【結語】

医療機関では、不要な会議体の削減や効率的な進行が職員の負担軽減と業務改善に寄与する。ファシリテーション技術を活用し、効果的な意思決定と円滑な組織運営を図ることが重要である。

A. 研究目的

本研究の目的は、肝疾患に関わる関係者が参加する会議体の最適な在り方を明らかにし、効果的かつ効率的な運営手法を提案することである。多職種が連携する医療現場では、意思決定の迅速化や業務の効率化、経営目標の達成が重要であり、適切な会議体の運営がこれらに寄与する。しかし、無駄な会議体が多発すると、職員の負担増加やモチベーション低下、医療の質の低下につながるリスクがある。これらの課題を解決するための具体的な手法を検討する。

ヒアリング、筆者の医療機関経営支援の経験、文献等の考察を中心に検討する。

C. 研究結果

本研究では、肝疾患に関わる関係者が参加する会議体の運営には、以下の要素が重要であることが示唆された。

- 目的の明確化**：事前に会議の目的や議題を共有し、結論を導くゴールを設定することが重要である。
- 参加者の役割明確化**：関係者のみを招集し、全員が役割を果たせるようにする。
- 結論の明確化**：会議終了時には、決定事項とアクションプランを提示し、担当者と期限を決める。
- 時間の効率化**：無駄な会議体を削減し、必要な会議体は短時間で要点を押さえた運

B. 研究方法

本研究では、肝疾患に関わる関係者が参加する会議体の役割と機能、課題点を整理した上で、肝炎医療コーディネーターへの

當が望ましい。

5. ファシリテーション技術の活用：積極的な意見引き出し、参加者の発言バランス調整などが効果的であった。

6. フォローアップの徹底：議事録やアクションプランの共有と進捗管理が重要である。

また、多くの医療機関では、過剰な会議体の設置により職員が多く時間を使っている現状がある。会議体の目的が不明確であったり、内容が重複していたりすると、業務効率の低下や職員のモチベーションの低下を招き、医療の質にも悪影響を及ぼしかねない。そこで、限られた時間と人材を有効活用するためには、不要な会議体の削減と、本当に必要な会議体の厳選が不可欠である。会議体の負担は「開催の是非」「頻度」「参加人数」「時間」「代替手段の有無」の5要素の掛け合わせで考えられる。まず、会議そのものが必要かどうかの検討が最優先である。不要であれば即座に廃止し、開催が必要な場合でも、頻度を見直し、参加者を最小限に抑え、効率的なメンバー構成とすることが重要である。さらに、会議時間の短縮や事前の意見収集などにより、効率的な進行を図る工夫が求められる。加えて、オンライン会議や資料共有など、対面会議以外の代替手段が有効な場合は積極的に取り入れるべきである。これらの要素を順次見直すことで、会議体の枠組みを最適化し、職員の負担軽減につなげることが可能となる。

さらに、会議体の現状を把握し、改善点を見つけるためには「会議・委員会満足度調査」の実施が有効である。例えば、会議の開催頻度や参加者数、会議時間の適切さ、議論の有意義さ、議事録の共有状況などを5段階評価で回答してもらうことで、問題点が明確になる。この調査結果を基に、不要な会議体を削減し、必要な会議体の質を高める取り組みが重要である。こうした取り組みにより、医療機関における会議体はより効果的かつ効率的なものへと改善され、医療の質

向上や職員の負担軽減に貢献できると考えられる。

D. 考察

本研究の結果から、肝疾患に関わる関係者が参加する会議体が多様な役割を担い、意思決定や業務の円滑化に重要な役割を果たしている一方で、過度な会議体の開催や非効率な進行が職員の負担となる問題が浮き彫りとなった。会議体の削減や時間短縮、参加人数の見直し、代替手段の活用が有効な対策である。また、ファシリテーション技術の活用は、参加者の意見を引き出し、活発な議論を促進する手段として効果が大きいと考えられる。さらに、会議後のフォローアップを徹底することで、決定事項の実行が確実となり、会議体の成果が最大化されることが示唆された。

E. 結論

肝疾患に関わる関係者が参加する会議体は、医療の安全と質の向上、業務の効率化、法令遵守、患者サービス向上に不可欠な役割を担う。一方で、無駄な会議体の乱立や非効率な運営は職員の負担を増大させるため、会議体の目的や参加者の役割を明確にし、時間効率を意識した進行が重要である。ファシリテーション技術を活用し、効果的な議論と意思決定を促進することが、関係者の負担軽減に寄与する。今後は、各医療機関が自院の実情に応じた最適な会議体の運営方法を見直し、より効率的な組織体制の構築を目指すことが求められる。

F. 政策提言および実務活動

＜政策提言＞

なし

＜研究活動に関連した実務活動＞

医療機関向けの人的資源管理の設計

医療機関向けの院内連携の仕組みづくり

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし